清行幸の次第目録

一 楽の事
一 御方乃くすの事　同座しいのす
一 御馬乃事
一 御能の事
一 沸き物の事　同御引出を
一 御公家衆へ志んぜられく太
一 ていしやうとうけ給ふる衆乃事

WA7 257

16.3.11 国会図

いく千代をかさねてもなほ

うけつきぬるけをさまるみのまに

よろつ代をかそへぬいろに國あえの

あひくすしさやきみのくれ竹

関白左大臣藤原信尚 近衛

従一位藤原信房

下三

いく千とせ君かみるへき春ためしとも

植そへん きりなそのくれ竹

應同

いくと世を楽しみへぬる竹のいろそひて

君か治世とちきりそへらし

[illegible]親王 伏見

かきりなき代よはられらん八千年を

ときはかきはの庭のくれ竹

左大臣兼遐 一条

いく千年ちきり置らしくれ竹の

よろつよふる春まちえそて

式部卿智仁親王 八条

ほさ揚さ露いくよろつかくれ竹の

よろつの國を治むるひさ世を

弾正尹好仁親王 高松

行末の君かさかへをよろこひ竹

しるあるけやよ代ならさん

従一位藤原忠栄 九条

くれ竹のよ代うけてちきるてふ

君かこゆきかれかきりあらしぬ

内大臣藤原康道 二条

千々の秋あひせぬやとのくれ竹

君にちきれる事ふとこよの春

中宮大夫藤原実條 西三条

あめかしたしるしのけふのひかりにて

きみかちよませやとの呉竹

権大納言藤原光廣 烏丸

すゑを数き御代にもあれはみとりそ竹の

おりしぬ色を君かちきりて

左近衛大将教平 鷹司

かきりなき君か御代なるおくひもや

けにならしそのくれ竹

右大将幸家 九条

いろかへぬまつのよろひろあらへみん

見きりの竹の万代のけ

権中納言藤原季継 阿野

よ代につなれまつ乃そ治まときてふ

なほよろつ代を秋ふちえらん

参議右大弁藤原業光 柳原

きよそみん柳の葉けのみしてあそひ

ねきそかそふちよの色すん

右近衛権中将藤原基詩

年しくう松の根さしてくれ竹の

世々のちきりを君そたもらむ

従二位藤原実益 西園寺

従一位藤原定熙

権さ入て治秩楽につてよ未さ徒き

見まちのうけのよろつ代までと

りさぬへ春は年れ秋をいく千代を

花山院

権大納言總光

廣橋

ねきそかそふるちよのかすかん　従一位藤原実益　西園寺
年ふしくり松乃根さしてくれ竹の
世々のちきりを君そ志るらむ　従一位藤原定熙

擬人て竹契遐年と読き
見あかりのふけのうろけ代まてを
りさぬへ我衛幸此杖をいく千代を　権大納言総光　広橋
ちきり住みみん庭のくれ竹
すなをなるうゑれハつまうとあふけるな　権中納言宣衆　菊亭
よゝをふ為代乎うりちきりて
多をせし一ふ八千とせ志をるくれ竹乃　中納言実顕　阿野
よもひを君うち代ふ住幸八
石清水をめるをられと千代をみん　参議宰相藤原光賢　烏丸
うてふの竹をうけのひく契り
をゐと多く万代まてもさうゆらん　中将為親　冷泉
ふけをとうへふし我志満のうち
君も臣もふしくふさを呉竹の　藤原忠定　清水谷
よそうしこめてやちさうゆらん
くれ竹乃のりらぬうけう今より乃　神祇伯雅陳王
きゝのちと契を祝ふまふうみ　中宮大進藤原経広
君か代ハ棚うりかるくれ竹の　勧修寺
ねやしときゝの色うりちれらむ　小納言菅原為適
ねさ波連れ代乃為めしをひくうりある　五条
竹のまうへぬりろにちきらん
わしとふ千年をこめて山との色　権中将源親顕　小島
こゝあわこやなう庭代くれ竹　権中将藤原之親
お代とさゝのみんやよのあしふけの
こゝさかを君ふうけてちきらん　権大納言藤原資勝　中山
ちきりをうん君うふ年をめすんへを　日野
をくうう示をためしよハして
なふうゑを君よひるまてくれ竹乃　権大納言藤原公益
千為をれやちよを加さねん　西園寺
ちよふへき君のよそひをくれ竹の　中納言藤原宣衡
ゆくすゑうけて猶やちきらん　中御門
参議藤原基定

千世うりな殺いく千代を人てふけ此家の
ゐすふやとらんきゝのよそひハ　具起
まう君乃よそひうりちきれうけちき　岩明院
具金

ちとせをへやちよをかさねん

ちよふへき君かよはひをくれ竹の
ゆくすゑかけて經やちきらん

中納言為家宣衡　中御門

侍従為家基定

千世ふる数ゆく千代そへて呉竹の　具起　持明院
みすにやとらんきみのよはひハ　　　　基金

まつ君乃よはひのうちきれ竹さき
千歳代万乃ちよ乃ゆくすゑ　少将為家為尚

色々へぬ君か為乃呉竹をあまりて　中将少将泰重　下冷泉
ひくるゝ代乃ちゑそ久しき

世々を経ていろもかはらぬくれ竹を　土御門
君かよはひのためしとそ思ふ　　　　持長

わかきみのちよ万代を一ふしに
こめてそあひくみその呉竹

園氏のこゝ猶と竹をあひさ合て　少将源重秀　庭田
千代をへぬへきためしとそみん

君もなをちよあり至てよ色かへぬ　中納言光慶　日野
みきりの呉竹よはふ君ちきり呂て

色かへぬ呉竹よはふかちきり呂て
千代ハ　　　　　　覚深　仁和寺

ちを重ね千代と君そかぞへん

をふかくあひそふ呉竹のよゝを重て　尊性　大覚寺
君かよはひのおやとそらん

あふけおとまふの行幸うあひ来の　良恕
をくる君か代々のめすゑ　　　　尊純　竹内

すゑを猶くさこうすあきみんれさ渡まれ　　青蓮院
よよあひきあふ竹乃決めを　　　　　博恭

浮をちよをかそらぬ代うちきりとをて　　随心院
ともふきの君ん座はくれ呉竹　　　　信尊

とことハにかはらぬいろ乃くれ竹の　　実相院
よろこやち代を君そかぞへん

行すゑを思ふをひさしかきうりさき　常尚　曼殊院
よそむとちれるうちのくれ竹
みはのれもうしまふ毎けれうけまても
君か千年のいろそこもまらあ　沙門　覚空

千年ふるかはらぬ色と君か代れ
ためしにうへるうちの呉竹　　宮無　三宝院
代々ふへき君かきりの竹やひさしくさ乃　　　勧修寺
さのみとつるふちきり至らん　　　　　　　　西洞院

ゐんの志けきまり四つ乃ち紀うそらぬまつのいろふり
を稚を分年の紋成志る古今うたくひなき君の代乃
めてたかりけるとれせこや

三十郎　大　少次ゝ　経　又三郎
なりさ　彩花　小　彩九郎　左　左吉
七郎　源来つ
田村　長茂　長来つ　長茂
七大夫　又四郎
源氏供養　猪来つ　新九郎　長茂
三十郎　少二郎　長茂
紅葉かり　長茂　長来つ　左吉
七大夫　九郎長清　又三郎
左成る　彩花　小左来つ　熱清つ
七郎　源清門　長茂
三輪　長茂　長来つ　熱鳥
七郎　九郎長清　又三ゝ
菊永　彩花　小左清つ
七大夫　少九郎　長茂
く満さり　長ゝ　小左鳥　彩助
三十郎　又四郎　又三ゝ
志やうしく　彩花　彩九郎　左吉
法を抱て党　将軍様より上分

一砂金　三ふ歩　一銀子　三千枚
一法服　二百なし地なまき志なりもう三十さかに入
一紅　二百きん　ゆたんのうれ事
一沸てりん　たうふう一川金の打枝より付
一沉香のかた　なりさ二月小中まきり四尺五寸五
一らんけい百巻いろ〳〵　一さい満い　卅枚
一志やうう　又きん銀の大なつめより入
一三ふくそ法以をつけいれ合んおりんあるきまうこと
一法将来　法がらうと二重く共に有し地なまき志也
一法太刀　二ふ里　一文字　行平　きんらんのふく
一法馬　十ひきうしいをともに　ろに入法紀右に同
一法伊祢名具　のこらすいろ〳〵あるを

八

一く重ゐん　大一つ銀　一志ゝのかうろう一川　金
一法紀のらうそく立金　一く志やく乃うう説う　同
一てをけ銀作花入　一法をこ里四内二川古きをそ

一御太刀　二ふり　一文字　御平　きんらんのふく
一御馬　十ひきらいきらもよ　ろう入御おなし日
一御伊勢名具　のこらすりうくあそ

一くまかん　太一つ根　一ゑこのおうろう一川　金
一御れのらうそく立金　一くゑやく乃うう清う　同
一てらけ根花入　一御ゑうまでの内二川なきまるく
一伊りう二つ内一川根　一かう焼り乃根もん　三十枚
一たいを同けかうろう之　一ふ浴　一り肉あら未
一水さし　一清ちやりん二川　一なつめ　一水こほし
一うくはき　一ふ為とら　太ろうをもみかきん
一りんをれの勝乃具一勝　小なな七十三りろ内りみりろ
二川ゆ清き一川根以外八瑳ぞさん
一ゑろうの此御勝の御目せん弟　右同お
御方乃くろ全の之れの
御書重をこまきま書きき之ありし地金うみりひ此分
一御もくまふん為い
以上
大御所様より之の御進物
一御太刀　面　金他一腰清翁るまさゑありち金うなかひ
一てかん　きん乃打物小付　一らう為い壱ア形外口紫
一すりう乃為んめの此川　一万気集共さ乃定ゑ口此紫
御をこいつまをとめ地金うまきゑ御り
十きん志ろりの乃をこ小入りく一尺六寸
長さ二尺たりさ一尺ゑすあり
一きやら
ゑきん志ろお弥の丈すりめゑつろう入
一志やかう
六十きん太はか二小入くれないれめくうけ
一ころ
ゑひきかいくれに　一ひまんす　百まき
一御る
両ありちたりまき為きんの小りひの去物
一御脇
一金子　武千両　廿さかよ入ゆたんりつわ
同御番様より
一清ふく　三十なの内三さうむしちうろ歯さゑ
一ゑやきん　三百両　きんかゐりいゆたんりつわ
中宮様へ　御筆指より
一根　ふ枚
一御脇　五十ふしちうろ歯さゑ去物十さうかろう入

一御ふく　三十かさねもち三さかなしちうちぬきさしおね
一しやきん　三百両　きんかなくいゆたんしわ

中宮様へ　将軍様より
一銀　千枚
一御服　五十かさねしちうちぬきさしおね十さかさり入
一ねりいと　百きん　一沈香　百きんねのあくきりのく
一ひさや　五十巻　一白きんす　五十まき
一しやかう　二きんしろかねのなつめ二ツ入
女院様へ　将軍様より
右同前
女一宮様へ　将軍様より
一銀　三百枚　一きんらん　拾まき
一御ふく　三十かさね地まきゑなかもち二つ入
女二宮様へ　将軍様より
一銀　二百枚　一御ふく三十かさねちまきゑおね
中宮様へ　大御所様より
一銀　五百枚
一御ふく　廿かさね地まきゑ長持五つ入
一ちんかう　一しやかう　五十両さ
一きやら　五十きんしろかねの箱七つ入
女院様へ　大御所様より
一銀　五百まい
一御ふく　廿かさねちまきゑ長もち五つ入
一ちんかう　一しやかう　五十まき
一きやら　五きんしろかねのはこ入
女一宮様へ　大御所様より
一銀　百まい　一御ふく　廿長もち入
一御あやおり　一御ひいなのうき
女二宮様へ　大御所様より
一しろかね　百まい
一御ふく　廿かさねもち入
一御あやつゝみ　一御ひいなの具

禁中様へ　御所様より
一御金　三十枚　一御ふく　三十
中宮様へ　まり御ふくいさ殿より

一志ろが祢　百まい
一清ふく　廿なのもちよ入
一はあやつ里　一ゆひいな具

横中様へ　　若御番様より
一砂金　三十枚　一清ふく　三十
中宮様へ　　もりゆふいさ海より
一しやきん　廿まい　一清ふく　廿
女院様へ　　わりはたいさ海より
右同前　　王の御たいさまより
女一宮様へ　　一ゆひいな　金銀
一清ふく　二十　　王のこたい様より
女二宮様へ
右同前
以上

新華のとき公家衆へしんせらるゝは大力党

近衛殿　雲次　鳥丸大納言殿　雪家
一条殿　守家　西園寺宰相殿　准慶
二条殿　安修　清宗寺大納言殿　信包
九条殿　行平　四辻中納言殿　守家
鷹司殿　長光　柳原宰相殿　別家
八条殿　助吉　花山院宰相殿　延喜
伏見殿　信國　日野大納言殿　行平
高松殿　次吉　伏見之宮殿　助依
鷹司殿若御所　國村　西洞院宰相殿　長光
九条殿若御所　雪家　中御門中納言殿　助依
中院殿　来國光　各安乳宰相殿　長光
花山院殿　守家　鳥丸左弁殿　長光
西園寺殿　基國俊　中御門殿　新右衛
日野大納言殿　菊光　白川殿　西蓮

以上合三様二ふ里
右見者二條まで七月小初軍様より里清りてされは

清様家衆へ　　清花衆
一銀　三百枚　一銀　百枚
一小袖二十　近衛殿　一小袖廿　西園寺殿
一銀　二百枚　一銀　[illegible]

以上合三指二ふ里

右見者二條にて七月小物軍指より里ゆくとされば

十一

法指家衆へ

一銀　三百枚
一小袖二十　近衛殿
一銀　二百枚
一小袖二十　九条殿
同　二条殿
同　一條殿
同　親王家鷹司殿
同　八条殿
同　伏見殿
同　高松殿
一志ろりの二百まい
一小袖十　鷹司右大将殿
同　九条大納言殿
一銀百枚清門殿
一小袖廿　仁和寺殿
同　勝万院殿
同　照高院殿
同　梶井殿
同　竹内殿
同　大覚寺殿
同　妙法院殿
同　一条院殿
同　知恩院殿
同　隠心院殿
同　三寶院との
一志ろりの五十まい
一小袖十　勅修寺殿
同　実南院殿
同　実相のんとの

清花院

一銀　百枚
一小袖廿　西園寺殿
同　花山院との
一銀二百枚
一小袖十　三條大納言との
同　中院中納言殿
一銀　百まい
一小袖十　月野大納言との
同　鳥丸大納言殿
同　廣橋大なこんとの
同　菊亭大納言との
同　鷲尾大納言との
同　西園寺大納言との
一志ろりの五十まい
一小袖十　中院門中納言との
同　正親町三条大納言殿
同　足辺中なこんとの
同　河野中なこんとの
同　清宗寺中なこん殿
同　西洞院宰相殿
同　花山院宰相殿
同　西園寺宰相との
同　廣橋さいしやうの
同　柳原宰相との
同　鳥丸宰相との
同　教右門佐殿
同　花山井中ゆる
同　冷泉中ゆる
同　かんしゆる舟殿

一銀五十枚　六条少将殿
一小袖十　山ゆ少将殿
同　土御門中務殿
同　中院ゆる殿
一銀廿枚　小島少将殿
同　園少将との
同　東坊城少納言殿
同　庭田少ゆるとの

一小袖十　勅修寺殿　同　龍雪井中ノ為
同　寅清院殿　同　冷泉中ノ為
同　実相ゆんとの　同　ゆんしゆす寺殿

一銀五十枚　六条少将殿　一銀廿枚　小島少将殿
一小袖十　山ゑ家少将殿　同　園少将との
同　土山門中務殿　同　東坊城少納言殿
同　中院侍従殿　同　庭田少将との
同　四条侍従殿　同　五条少納言殿
同　舟橋式アル　同　河鎌侍従との
同　久我中将殿　同　平松侍従との
同　日野中納言殿　同　甘露寺寺との
同　龍雪井侍従殿　同　冷泉少将との
同　三条侍従殿　同　樋口少将との
同　呉会木工殿　同　西坊城少納言殿
一銀三十枚　同　小河坊城との
一小袖十　五辻右兵衛殿　同　龍尾侍従との
同　中山大中将殿　同　橋首侍従との
同　鵜沢梅三位中将殿　同　後小路少将との
同　徳大寺中将殿　同　清宗寺右向ノ為
同　竹内刑アル将殿　同　姉小路少将との
同　大炊御門侍従殿　同　松木侍従との
一銀二十枚　同　四辻侍従との
一小袖五　滋野井中将殿　同　日野西右少ゆん殿
同　兵庫ゆん殿　同　西洞院侍従との
一銀三十まい　同　東園侍従殿
一小袖十　五垂衛三位殿　同　菊屋小路右兵衛佐殿
同　園大中ノ為　同　久世せうしやう殿
同　白河二位殿　同　難波侍従との
同　清水谷侍従殿　同　持明院侍従殿
一銀廿まい　正親町大中ノ為殿　同　中川侍従とれ
同　梶井中ノ為　同　花その侍従との
同　水垂衛中ノ為　同　小倉侍従とれ
同　花谷中ノ為殿　同　中山門左兵衛佐殿

十二

一銀二十枚　一銀十枚
一小袖五　正親町侍従殿　一小袖三ツ　森越前
同　寺倉侍従殿　同　思本義伯

同 梶井中納言 同 花々の御局との
同 水無瀬中納言 同 小倉侍従との
同 藤谷中納言 同 中の門大納言佐為

一 銀二十枚 一 銀十枚
一 小袖五 正親町侍従殿 一 小袖三つ 森越前
同 三条侍従殿 同 西中義他
同 油小路侍従殿 同 山形右衛門
同 樋口侍従殿 一 銀十枚 堀山長門
同 浦辻侍従との 同 岡あさ
同 河野侍従との 同 玄入内
同 伯侍従との 同 川勝佐渡
同 風金侍従との 同 世続乃濃門射
同 唐橋式部 同 大沢大膳大夫
同 梶井侍従との 同 松浦兵九郎
同 西大路侍従殿 同 大外記
一 銀五十枚 同 官務
一 小袖五 慶橋侍従との 同 古山隆海
同 日野侍従との 同 調子故お
同 廣ふ侍従との 同 同主膳
一 銀六枚 同 三上日向
一 小袖五 七条侍従との 同 調子玄蕃
同 治部大夫 同 同為盛
同 まん丸 同 村越備前
同 大せん丸 同 世古刑部
同 藤西寺田丸 同 常浜井院湯乃
同 花房大夫 同 成田兵庫
同 岩ア太輔 同 出羽老坊
同 勘ヶ由書 同 同為盛
同 右京大夫 同 服部玄蕃
同 担庵 同 大蔵宗女
同 清光人 同 小野隼人
同 堀小路光人 同 井関刑部
同 倉橋光人 同 吉田兵部

行幸のていころもしおかせ被仰ら遂仰覚 小堀遠江守
井伊掃部頭次 中村木工右衛門
一 棟中一枚

同　清蔵人　同　小野隆正
同　塩小路蔵人　同　井関刑ア
同　倉橋蔵人　同　吉田兵部

行幸のていたもうとおかせはけらまほ覚

一 禁中 — 検　　小城遠江守
　　井伊掃ア次　中村本工右衛門
　　板倉周防守　高安三ノ右衛門
一 中宮様　同女中方共小　酒井抱茶次　本味金右衛門
一 女院様　同女中方共小　土井大炊次　板川兵次ノ
一 皇宮様　同女中方共に　松平右門大夫　次田ゆう右郎
一 禁中様　女中ゆう　伊丹橋ア守　角南主守
一 摂家衆　　中坊左近
　　松前美濃守　山田内長兵衛
　　小笠原右近大夫
一 親王家　　松平下總守　今ん和ん寺
　　松平河内守　新宮吉兵衛
一 門跡衆　　奈平式部少将
　　松平周防守　横村隆兵衛
一 公家衆　　松平越中守　松崎本郎兵衛
　　恩部内膳正　高西夕吉
　　水野隼人正
　　戸田因幡守
　　丹羽式ア少将
　　松田能孫守
　　松原伯暗守
　　溝口伊豆守　小野熊右衛門
一 地下衆　　蒔田権助　吉川宗兵衛
　　長谷川刑ア少将　根来左衛
　　片桐主膳正
　　片桐出雲守
　　青木民部少将
　　岩出羽守
　　石川伊豆守

十四

十五

はこんさての次第
金きそく
初献　こさし亀甲　はさうに　はてしか

青木氏新少将
岩出羽守
石川伊豆守

はこんこその次第
食きそく

初献　こさし亀甲　はさうに　はて志か
　　けはりをの
二こん　くらけ　うへをも　はすい拍
　　うゝをく
三さん　そゆ拍　ふな
　　七ゝ膳ゝ次第
清か膳　志かひき　ふくめ　やきをの
　　何へませ　　はゆ漬
　　たこ　おけ　けし
清二　おんちん　この後かこ　清志るくい
　　さめ　くらけ　はしろあけめ
はこ　そむ　やき者　うへをも
　　すし　かそう　はしれ候る　牛房
清与　まれをれめ
　　うゝをく　さのむて　はしふまゝき
清五地紙髪盛　伊り　うろこ　歌桶三つ
　　りきこ　くをあこ　きをこ　はけをこい
清六　をいま　さくい　もい
　　そ後をも　志いかけ　はしる鯉
はし　ふなも　よし
　　そをも　清志るふな一さんよ
はし　拍三つすへ
　　一ふれさくし　一うつら羽もり　一のし
　　夜清不拍　一うけら羽もり　一ふれこくし
清くへし　うき　ある魚い　うや　さくろ　のし
　　志を弱目もりり八分を
あつれまち通き田町

何へませ　法湯漬

たこ　おけ　けし

御二　おんちん　この海かこ　清志るこい

さめ　くらけ　小志るめ川め

法三　そむ　やき鳥　うへ毛里

すし　かそう　法志新清る　牛房

御与　まれ志新め

うらせこ　さの元て　法志ふきらき

法五地紙表盛　伊の　うろこ　飯桶三つ

のさこ　くを毎こ　きをこ　法汁をこい

法六　きいま　さくい　そい

そ海を里　志いこけ　法志る鯉

法七　ふかも里　よし

そを里　清志るふな一さんよ

法　物三つすへ

一ふれさくし　一うつら羽もり　一のし

夜御示指　一うけら羽もり　一ふれこくし

御くれし　のき　ある無い　のや　さくろ　のし

志を弱目をりわ八る里

あいれまち通る田町

国立国会図書館